

(2) 子どもの意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

基本目標1「子どもの意見表明・参加の促進」 80件

子ども運営委員会・子ども企画委員会について 19件
主な意見の概要 <ul style="list-style-type: none">・意見を言うのが不得意な子もいるので、一部の子どもだけの意見で活動するのではなく、より広く子どもの意見に耳をかたむけることができれば本当によいものになると思う。・たくさんの子どもの意見を取り入れるために「子ども運営委員会」をもっと宣伝し、委員会への参加を募ればよい。・子どもはいつも「子どもだから」「子どもが」などと言われて、意見を言うこともそうそうできなかつた。「子ども運営委員会」ができれば、少なくとも意見を言えるようになると思う。もしかしたら、その意見が通るかもしれないので、つくることに賛成する。・子ども運営委員会、子ども企画委員会をつくることに賛成する (16件)
札幌市の考え方 <p>札幌にある全ての児童会館・ミニ児童会館では、会館の利用方法や、イベントの企画・運営を子どもが中心となって話し合う「子ども運営委員会」があります。</p> <p>児童会館以外の主に子どもが利用する施設でも、この「子ども運営委員会」をつくったり、市役所が新しい仕事をはじめるときには、「子ども企画委員会」をつくったりするなど、できるだけ多くの機会に、広く子どもの意見を反映できるよう取り組んでいきます。こうした考え方をきちんと計画の中に盛り込み、これに基づき計画を進めていきます。</p>
子どもの参加について 15件
主な意見の概要 <ul style="list-style-type: none">・児童会や生徒会だけでなく、一般生徒の意見も聞いてほしい。(2件)・子どもとして一番身近な場所は、やっぱり学校なので、そこで意見を出したり、それが反映されたりすると「子どもの権利が守られている」という実感がわきやすい。・学校の決まりごとについて子どもが意見を言えることについて賛成 (5件)・豊平区では生徒会サミットというのがあり、いろいろな問題について話し合っている。札幌市でも他校の子ども同士が話し合う場をつくるのはよい。・町内会の集まりで行事の企画をしていると楽しい。将来のことを考えたらこういう活動は必要。・他の都市では、図書館で子どもが読み聞かせをしたり、子どもが行事に参加できる。札幌でもこのようなことや、図書館に入る本や行事の企画を子どもが行うとよい。・その他の意見 (4件)
札幌市の考え方 <p>学校、子どもが利用する施設や地域など、さまざまな場面で、子どもが大人と一緒に話し合いを行う場を広げるよう取り組んでいきます。</p> <p>学校では、児童会・生徒会を中心とした自主的な取組を進めたり、例えば、皆さんからの意見にもある生徒会サミットのような子ども同士の話し合いの場や、大人と子どもが学校のきまりごとなどの共通の関心事について話し合いを行う場を広げていきます。</p> <p>また、子どもの利用する施設や皆さんが住んでいる地域の活動などでも、子どもが意見を言ったり、参加したりしやすくなるよう、積極的に働きかけていきます。</p>
体験機会や子どもの学びについて 46件
主な意見の概要 <ul style="list-style-type: none">・職業体験によって、働くことの意味や利益だけではなく、楽しさ、大変さをより深く実感できるし、親の苦労もわかる。また、親への感謝の気持ちも強くなると思うし、将来仕事をしたときも、子どもの時の職業体験は生かしていける。・自分のなりたい職業を見つけたり、就職の意欲がわいたり、将来のことをしっかり考えることができる。・将来のことを考えて職を選ぶには、何回か繰り返しやったほうがいろいろなところに行けて自分の親が働いている様子や大変さが分かるのでよい。・職業体験先に迷惑がかからない工夫が必要。・他都市にあるような誰もがたくさんの職業を体験できる施設があるとよい。自分に向けた職業が見つかるので、人気のある職業に加えて、あまり知られていないような職業も加えるとよい。・「札幌らしい特色ある学校教育」は、札幌の街に自信や郷土愛を持てるよい取組だと思う。・職業体験や学ぶ機会を増やしてほしいという意見。(40件)

札幌市の考え方

職業体験は、子どもが、働く楽しさや大変さ、社会の仕組みを知ることができる取組であり、非常に大切なものと考えています。

札幌市内には、学校と民間の会社などが協力し、子どもたちが実際にお店や病院などを訪問して職業体験に取り組んでいる例がありますが、このような機会がより充実するよう、学校や地域、民間の会社などへ働きかけながら、進めていきます。

また、札幌市の全ての幼稚園や学校が、「札幌らしい特色ある学校教育」として、「雪」「環境」「読書」のテーマに沿った取組を進めることで、心の中に「ふるさと札幌」の意識を持ちながら、将来の札幌を支え、世界で活躍する自立した市民・社会人として育てていくことができるよう取り組んでいきます。

基本目標2「子どもを受け止め、育む環境づくり」 97件

児童会館・ミニ児童会館について 29件

主な意見の概要

- ・児童会館で放課後どのような活動をしているのか分からないし、小学生だけが使う施設というイメージが強くて、なかなか行きづらい部分もあるから、毎月児童会館便りみたいなのを配布して、児童会館の状況を知らせてほしい。
- ・児童会館を知らなかったのもっとPRしてほしい。(5件)
- ・児童会館は学校では遊べないことができるし、これからも、児童会館で楽しく遊びたい。
- ・児童会館の活動を続けてほしい。(6件)
- ・児童会館は多い方がいい。小学校の近くにあるといい。
- ・子ども運営委員会を知らなかったので、機会があったら参加したい。
- ・小学生の時、一度児童会館に行こうと思っていたけれど、ものすごく入りづらかった。だから誰でも入りやすいようになってほしい。
- ・誰でも気軽にいけるようになってほしい。(2件)
- ・児童会館がないときは、ミニ児童会館があるのは、とてもよい。
- ・ミニ児童会館をつくることに賛成の意見(5件)
- ・近くに児童会館がないにかかわらず、全ての学校にミニ児童会館をつくってほしい。
- ・その他児童会館に関する意見(4件)

札幌市の考え方

児童会館は、0歳から18歳までの子どもがいつでも誰でも利用できる施設です。いろいろな年齢の子どもたちが集団での遊びを通して、地域での交流を深める、とても大切なところです。皆さんからいただいた意見も参考にしながら、児童会館を多くの人に知ってもらい、安心して利用してもらえよう、これからも、さまざまな遊びや活動を充実し、安全・安心な居場所としての児童会館づくりを進めていきます。皆さんもぜひ積極的に利用してください。

また、児童会館は、1つの中学校がある地域には基本的に1つあり、児童会館を利用しにくい地域には、優先順位を決めながら、小学校の余裕教室などを活用したミニ児童会館をつくっています。

子どもの居場所について 57件

主な意見の概要

- ・「公園に新しい遊具をつくってほしい」、「スキーやスケートができるようにしてほしい」、「ボール遊びができるようにしてほしい」(31件)
- ・公園やスポーツ施設などをつくってほしい。(7件)
- ・不審者が出ないようにしてほしい。(2件)
- ・学校以外の場所でも安心して過ごすことについて、学校に行きにくくなって、フリースクールに行きたいと思っても、近くになくていきづらい人もいるから、できれば増やして学校の人から行けなくなった人にすすめたりすると、もっとたくさんの方が学校以外でも学べると思う。
- ・フリースクールの授業料を市で負担してほしい。
- ・自分のペースで努力できるフリースクールは気持ちが楽になる。フリースクールで過ごす自分も認めてほしい。
- ・出席日数で行ける高校の選択肢がせばまらないようにしてほしい。
- ・学校だけではなく、子どもたちにとって安全な遊び場所を作ったり、障がいをかかえた子のために安心して過ごせるような環境づくりをしたりするなど全ての子どもたちのことを考えていろいろな場所をつくってほしい。

<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育所をもっと増やしてほしい。 ・子どもが安心して過ごす居場所があることに賛成という意見（4件） ・その他の意見（7件）
<p>札幌市の考え方</p> <p>公園の整備に当たっては、今後も、より地域に親しまれる公園となるよう、意見交換会やアンケート調査など通じ、利用者や地域住民と連携協力し取り組んでいきます。また、できるだけ多くの機会をとらえ子どもの意見を整備計画の中に反映できるように取り組んでいきます。</p> <p>また、子どもを不審者から守るため、地域の人に関心を持って子どもと関わる取組を地域全体で進めていきます。</p> <p>フリースクールについては、この計画の中では、どのような支援ができるのか施設の人と情報交換や連携をして一緒に考えていくことを盛り込んでいますので、これに基づき、連携や検討を進めていきます。</p> <p>学校以外でも、子どもが安心して過ごすことができるよう、児童会館などを中心に、居場所づくりを進めていきます。</p>
<p>子どもが中心となった活動について 11件</p>
<p>主な意見の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を行うのはよいと思う。最近、地球温暖化についての話題を耳にする機会が増えたので、子どもの環境に対する意識を高めるのはよい。 ・他人と交流をしたり、たくさんの経験をすることによって、自分のためにもなるし、公園などで子どもたちのやりたいと思ったことをなるべくできるようにすることは、子どもが責任をもって他の子と交流をすることができてよいことだと思う。 ・子どもが中心となった活動や自然体験の機会を増やしてほしい。（8件） ・「自分の責任で自由に遊ぶ」とあるが、もし子どもが誰かにケガなどをさせてしまったときに、その子どもが責任をとるとしたら、その考えは違うと思う。
<p>札幌市の考え方</p> <p>ボランティア活動や自然体験活動など、友だちや大人と一緒に参加できる機会を、関係する団体と協力して充実していきます。</p> <p>「自分の責任で自由に遊ぶ」についてですが、皆さんが身近な公園などで、自分のやってみようと思うことに自由に組み入れることが大切です。そのためにも、地域の人たちと協力しながら、活動方法などを考えていきます。</p>

基本目標3「子どもの権利の侵害からの救済」 127件

<p>子どもアシストセンターについて 43件</p>
<p>主な意見の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みをどうしても誰にも言えない人がたくさんいるので、とても大切だと思う。 ・電話で相談して一緒に解決の手伝いをしてくれるのは、とても安心する。 ・たとえ困っていることがあっても、やっぱり電話はしにくい。そういうところに電話した事が友だちにバレたら恥ずかしいし、いくら悩んでいたって「電話したところで何がかわるの？」というのが正直な感想。 ・気軽に相談できるような工夫をしてほしい。（12件） ・悩みごとがあったら、友だちか家族に話すと思う。 ・いじめのせいで、それがなくなってもその人にトラウマが残るので、いじめ以外でもアフターケアをしてほしい。周りでも万引きなどが起こっているが、罪を犯した子どももやり直し、傷にならないようにしてほしい。 ・もっと知ってもらいたいという意見（4件） ・子どもアシストセンターが何を行っているかなどをみんなに知ってもらいたいのが大事だと思うので、もっとプリントやカード、ポスターなどを増やせばよい。 ・電話相談はどう行われているのか、教えてほしい。（2件） ・子どもアシストセンターがあっても権利を侵害されている人が知らないと全く意味がない。「子どもアシストセンターなどの相談の場が札幌市にはある」ということをもっと多くの人に伝えるように宣伝してほしい。 ・話しづらそうだから、切手のいらぬはがきを学校でみんなに渡したほうがよいと思う。 ・子どもだけではなく、親も相談できるフリーコールなどがあるとよい。 ・電話で相談できるのはいいと思うが、実際に電話はくるのか。

- ・子どもアシストセンターの活動に賛成という意見（11件）
- ・その他の意見（4件）

札幌市の考え方

札幌市では、子どもアシストセンターを皆さんに知ってもらうため、市内の小中学生全員に学校を通して相談カードを配っているほか、学校や児童会館などにポスターを掲示しています。また、活動内容などをくわしく紹介した広報紙「あしすと通信」をつくり、学校や施設に配っています。

子どもアシストセンターには、大人も相談できる電話番号のほか、電話料金のかからない子ども専用のフリーダイヤルがあります。また、Eメールでの相談も受けていますので、電話で相談しづらい場合や電話につながりにくいときなどに利用することができます。

いただいた意見を踏まえて、子どもアシストセンターが、子どもにとって、より身近で安心して相談できる窓口として知ってもらえるよう、計画にもしっかりと盛り込み、引き続き取り組んでいきます。

平成21年度には、子どもや保護者などから3,571件と多くの相談が寄せられ、平成22年度は4月から1月までに3,000件を超える相談がきています。特に子どもからの相談が多いのが特徴で、電話やメールなどで直接相談を受け、解決できた例も多くあります。

これからも、寄せられた意見を参考にして、子どもたちの声に耳を傾ける相談窓口を目指していきます。ひみつは必ず守りますので、困ったときは、一人で悩まずに相談してください。

いじめや児童虐待について 46件

主な意見の概要

- ・いじめや虐待があった場合、その子どもの通う学校や保護者に精神的なケアを依頼したり、警察と協力して徹底的に調べることも必要。ニュースで見る限り、注意だけでは終わらないケースもあるので、もっと厳しく罰したりする必要もある。例えば、近所の人から話を聞くなどの情報収集を積極的に行えばいいと思う。
- ・子どもに虐待の調査をしたらよい。(3件)
- ・近所の人気が付いてあげれば、やめさせることができるので、協力すればいい。
- ・いじめや虐待などの権利侵害について、少しでいいから、具体的な活動を地域でもしてほしい。
- ・親の子育てに対するストレスを解消するとよい。(2件)
- ・虐待をしてしまった親へのメンタルケアも必要。
- ・親に直接注意できるようにする。(2件)
- ・警察や地域の人と協力するとよい。(5件)
- ・大人と子どもが交流する機会があるとよい。
- ・いじめや児童虐待をなくしてほしい。(15件)
- ・学校でいじめがある時はアンケートだけでなく、きちんと指導すべき。
- ・総合的な学習の時間で、いじめについての学習などをするとよい。
- ・学校の先生も親と話したりする機会を増やしてほしい。
- ・児童相談所を増やして、その場所や詳細について書かれているプリントを学校で配るとよい。
- ・むやみに子どもをつくってしまうことが、虐待を引き起こす原因だと思う。子どもを育てるといのは、とても大変だということや、しっかりと考えたいうえで子どもをつくらなければいけないということを、知っておくため、学校などでも一歩踏み込んだ教育が必要。
- ・スクールカウンセラーを増やすなどして、相談しているのを他の人に知られたくないと人のために、定期的に一人ひとりに対して相談を行う。(2件)
- ・地方公共団体だけでなく、国の法律から根本的に変えていかないと繰り返されると思う。
- ・法律で守れていないものを条例や計画をつくって虐待が減るのか。(2件)
- ・自分の気持ちを打ちあけづらいうちでも何の抵抗もなく利用できる機関をつくるべき。
- ・学校の近くに「悩み相談所」をつくる。
- ・その他(2件)

札幌市の考え方

札幌市では、「札幌市児童相談体制強化プラン」をつくり、児童虐待などから子どもの権利を守る取組をより一層進めていきます。

このプランを基に、地域や関係する団体と協力し、社会全体で児童虐待を解決するよう対策を進めるとともに、虐待を予防するという面で、専門の知識を持った職員が家庭訪問するなど、保護者が気軽に相談できる環境や、子育てをしやすい環境を整えていきます。

また、学校では、いじめ対策として、市立の小中高校の全児童生徒を対象に「いじめの調査」

をしているほか、全ての学校にスクールカウンセラーを置くなど、いじめの早期発見や早期対応に心がけています。

いじめや児童虐待は絶対にあってはならないことであり、皆さんから寄せられた意見も参考にしながら、子どもの権利が守られるように全力を尽くしていきます。

皆さんの周りでも、いじめや虐待を受けている子どもがいるときは、子どもアシストセンターや児童相談所などの相談機関に相談をすすめるなど、協力をお願いします。

子どもの権利の侵害が起きないための取組について 38件

主な意見の概要

- ・外国籍の人や障がいのある子どもとの交流する機会をつくってほしい。(6件)
- ・いじめに対する想いを伝えるために学校で作成したビデオなどを見せるとよい。
- ・いじめ、差別や虐待などがなくなるよう、なるべく小さいころから学ぶ機会があるとよい。(3件)
- ・差別が起きないように自分たちも気を付けていきたい。(3件)
- ・子どもは、大人を見て育つので大人を変えていけば子どもも変わると思う。
- ・人権について学ぶ機会が増えることに賛成の意見(18件)
- ・権利侵害は一人ひとりの意識なので、強制しても意味はなく、むしろいじめを増やすのでは。
- ・「差別が起こらないように、何かをする」という時点でもう差別はおこっている。そんなことはせずに自然に生活して、自然になじむのが一番。
- ・その他(4件)

札幌市の考え方

札幌市では、いろいろな機会を通して、お互いの違いを認め尊重し合う意識を身につけることができるような取組や、学校における民族教育や男女平等教育などを進めています。

これらの取組を進めていくときには、皆さんから寄せられた意見も参考にしていきたいと考えていますので、子どもの権利の侵害が起こらないようにするため、皆さんも協力をお願いします。

基本目標4「子どもの権利を大切にす意識の向上」 49件

さっぽろ子どもの権利の日について 16件

主な意見の概要

- ・毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」と決めているのは、とてもよいと思うが、それだけでは広がっていかないので、今回のようなパンフレットやポスターを学校で配って、みんなの目の止まる場所に貼るとよい。
- ・知らない人が多いので、もっとPRすべき。(11件)
- ・行事の企画は、子ども運営委員会でも話し合ってみてはどうか。当日の行事は子どもの興味をひく話題や、大人が子どもに権利というものを教える機会を得られるようなことを行い、札幌市の発展を目指すと思う。興味をひく話題の例として、アニメやマンガのDVDのほか、その年に話題があったキャラクターや、DVDだけではなく本で紹介することで幅広い年代の人に伝わっていくと思う。
- ・子どもの権利の日を広めるだけのために「子どもの権利の日」をつくるのは、お金のムダなので、やめた方がよい。
- ・子どもの権利の日についての意見(2件)

札幌市の考え方

札幌市では、毎年11月20日を「さっぽろ子どもの権利の日」としており、この日を中心として、多くの市民の皆さんが子どもの権利についての関心を高めるような行事を行っています。

現在も、この日を知っていただくため、チラシを学校などに配布するほか、広報さっぽろや子ども未来局のホームページでお知らせをしています。寄せられた意見も参考に、より積極的にPRしていきます。

また、行事の企画を行う際は、「子ども企画委員会」の設置など、子どもからも意見を聞いて、よりよい事業になるように工夫をしていきます。

子どもの権利の広報について 14件

主な意見の概要

- ・条例をつくったからには、すぐにでも何でもよいので実行に移していくべきではないか。もし、もう実行に移っているのなら、このパンフレットに結果をのせるべき。
- ・子どもの権利について、たくさんPRして、より多くの人に知ってもらうのが大切だと思うという意見(5件)

- ・市でがんばっていても、家では守られないこともあると思うので、親たちを集めて、子どもの権利のことを学んでもらう必要がある。
- ・子どもに伝える前に、まず大人に伝えるべき。大人にもプリントを学校のほうから渡したり、保護者だけでどこかに集まったりして知るなどいった方法で、大人にも知る機会を与えた方がよい。
- ・子どもがある程度小さいうちに教育することや、同時に親にも十分理解してもらえるようにしなければならない。
- ・アニメやマンガのDVD、これはとってもよいと思う。(賛成の意見他2件、反対の意見1件)
- ・子どもが知ることも大切だけど大人に知ってもらわなければなんの意味もない。あるようでない権利になってしまう。

札幌市の考え方

この計画に掲載している取組の中にも、すでに実行に移して取り組んでいるものもあり、こうした取組を知ってもらえるよう広報紙やホームページでもお知らせしています。

子どもの権利が守られるためには、大人にも子どもにも、正しく理解してもらうことが大切だと考えています。寄せられた意見も参考にしながら、さまざまな機会を利用し、広報活動により積極的に取り組んでいきます。

また、意見にあるように子どもの権利が守られるには、まずは大人が正しく理解をする必要があるため、市民向けの子どもの権利についての講座や、施設職員への研修をより一層行っていきます。

出前授業・学校の先生への研修について 19件

主な意見の概要

- ・出前授業をするときに紙しばいにすると印象に残る。
- ・わかりやすく要点をまとめてほしい。
- ・出前授業を行うことに賛成の意見(11件)
- ・難しく覚えてしまうので、子どもの権利については、親や先生に教えてもらうだけで十分。
- ・多くの子ども(特に不自由なく暮らしている子たち)は子どもの権利について興味がないので、出前授業や研修はいいと思う。
- ・現在、小中学生で子どもの権利を知っている人は少ない。しかし、多くの人たちにこの権利を知ってもらわないといけないので学校を通じて権利について学ぶことがとても大切。
- ・子どもたちの学びの1番近くにいる先生に子どもの権利のことをよく知ってもらい、その内容を生徒に教えるという考えはとてもよい考えだと思うが、先生は忙しいので、授業で使う資料は、強制的に普及し、研修は自由参加にしたらい。(その他、先生に対する研修を行うことに賛成の意見1件)
- ・学校の先生は忙しいので、研修には反対。子どもの権利については大人が知らない、権利侵害はなくならないと思うので、出前授業や研修はやめて、テレビなどで放送すればよい。

札幌市の考え方

札幌市は、学校から希望があった場合に市役所の担当者が小・中学校を訪問し、子どもの権利について説明する「出前授業」を行います。「出前授業」をする際は、なるべく分かりやすく、子どもに興味を持ってもらえるような内容となるようにします。

札幌市では、子どもが、子どもの権利について学習できるよう、学校の先生が子どもの権利について詳しく知り、分かりやすく教えることができるよう研修を行っています。今後は先生が研修を受けやすいような工夫を行い、より積極的に研修を行っていきます。

その他子どもの権利や計画全体への意見・感想等 16件

その他の意見・感想等 16件

主な意見の概要

- ・資料に書いている「子どもの権利」を実現してほしい。これからもっと子どもにも大人にもよい社会ができてほしい。
- ・子どもの権利は大切であるという意見(9件)
- ・その他意見・感想:6件

札幌市の考え方

子どもの権利を守る取組を進めていくには、札幌市だけではなく、市民の皆さんが一緒になって子どもの権利の重要性を理解し、これを守っていくことが大切です。これからもご理解とご協力をお願いします。

札幌市子どもの権利に関する推進計画(素案) に対するご意見の概要と札幌市の考え方

(お問い合わせ先)

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

住所：札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階

電話：011-211-2942 FAX：011-211-2943

Eメール：kodomo.kenri@city.sapporo.jp

ホームページ（子どもの権利のページ）：

<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri>